

令和 2 年度

嘉手納町教育課程特例校（英会話） 事業報告

～屋良小学校～

1 趣旨

嘉手納町教育委員会では、「進取の気象・国際性に富み社会に貢献できる人材の育成と生涯学習の振興」を目標に、「人間力豊かで、世界にはばたく人材を育むまちかでな」の実現に向け、国際化・高度情報化など社会の変化に対応できるよう国際理解教育や情報教育を推進している。

平成 21 年 11 月 9 日付け、教育課程特例校の指定を受け「英会話科」を新設し、小中一貫した系統的な英語教育を行うことで、国際理解・実践的英語力（コミュニケーション能力）の育成を育むことを目的として本事業を実施した。

2 基本方針・目標

本町は、東洋最大の嘉手納基地を抱え、外国人も在住し、町役場への来庁者への対応や基地内行事のスペシャルオリンピックへボランティアとしての参加等、外国人と日常的に接する機会も多く、町としても英語が話せる町民を必要としている。また、町内の学校では、今後、基地内の中学校との交流・海外ホームステイ事業も期待される。あいさつや自己紹介など日常的な英会話も含め、我が町の歴史・文化の紹介を手始めに、我が国の紹介などグローバルな視点から異文化理解を醸成する国際理解教育の推進、英語が使える日本人の育成を図るうえからも、今後益々、実践的な英会話力の育成が必要である。そこで、以下の方針・目標を定め事業推進の充実を図った。

(1) 基本方針

各学年、児童の特性に配慮した計画に基づき、英会話活動を実施する。

○小学校低学年

模倣の活動を好み、繰り返し練習をするパターンプラクティスも喜んで受け入れるこの時期には、身振り、手振りや英語のリズムに合わせて体を動かしたり、歌やチャンツを覚えたり、楽しいゲームをしながら「英語を使う場」を効果的に設定していくようにする。

○小学校中学年

集団での活動を好むこの時期には、好奇心も強くなり、グループ単位でのゲームにも熱中して取り組むようになる。子どもの興味・関心をうまくとらえ、体験的な活動やゲームを仕組んでいくようにする。

○小学校高学年

知的好奇心が高まってくるので、日頃から児童の話題や興味・関心ごとについての情報を収集しておく。また、発達段階から人前での会話に抵抗感をもつようになるので、言語活動自体に子どもの意識を集中させるのではなく、知的好奇心をゆさぶるような活動やゲームを取り入れるようにする。

○中学校

実践的な英会話技能の向上を目指すとともに、「聞く」「話す」「読む」「書く」領域の力を相互に高め、英語による自己表現力・自己発信力の育成を図る。また、自文化理解、他文化理解につながる国際理解教育の充実を推進する。

(2) 目標

- ◎英会話に興味・関心をもち、英語に親しむ。
- ◎英語を活用して自分の思いを伝えたり、英語を聞いて相手の考えを理解したりする。
- ◎英会話の学習を通して、異なる文化に興味・関心をもち。

<低学年の目標>

身近な英単語を使っての歌や遊びなどの活動を通して、英語を楽しむ。

<中学年の目標>

身近なあいさつや事柄に関する英語に触れながら、具体的な活動を通して、楽しく英語に親しむ。

<高学年の目標>

日常生活場面や状況に応じた英語に触れながら、楽しく英語を聞いたり話したりする。

<中学校の目標>

「聞く」「話す」「読む」「書く」4領域の力を相互に高め、楽しみながら場面に応じた実践的な英会話力を身に付ける

3 英会話活動における基本的指導内容

<低学年>

- 歌やゲームなどを通して、英語の発音やリズムに親しむことができる。
- ・簡単な日常のあいさつができる。
 - ・1～20までの数の数え方を言うことができる。
 - ・身体の各部や色、曜日、動物、果物、野菜、形などの身近なものの英単語を言うことができる。
 - ・英会話体操や歌、ゲームが楽しくできる。

〈中学年〉

身近な物や事柄の英単語に触れ、簡単な質問に対して英語で答えることができる。

- ・進んで日常のあいさつができる。
- ・1～30までの数の数え方を言うことができる。
- ・家族、場所、動作を表す名詞や動詞などの英単語を言うことができる。
- ・英語の歌やゲームなどの活動を通して、英語のリズムやイントネーション、基本的な英語表現に慣れる。

〈高学年〉

伝えたいことを簡単な英語で表現することができる。また、ストーリー性を持たせた状況を設定して、簡単な英語の会話ができる。

- ・状況に応じて、いろいろな種類の日常のあいさつができる。
- ・1～100までの数の数え方を言うことができる。
- ・実生活の中で使うことができる語彙（形容詞なども含む）を多く身につける。
- ・地図などを使って場所の説明や簡単な道案内ができる。
- ・買い物をするときの簡単な会話ができる。
- ・簡単なストーリーを覚えて発表することができる。

〈中学校〉

- ・ロールプレイによる指導を取り入れた具体的な場面で英会話ができる。
- ・ペア学習、グループ学習等、生徒間で英語によるコミュニケーションがとれる。

4 教育課程

(1) 小学校教育課程編成表（令和2年度）

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	92 (-10)	95 (-10)				
	音楽	63 (-5)	63 (-5)	55 (-5)	55 (-5)	50	50
	図画工作	63 (-5)	65 (-5)	55 (-5)	55 (-5)	50	50
	家庭					60	55
	体育	97 (-5)	100 (-5)	100 (-5)	100 (-5)	90	90
道徳	34	35	35	35	35	35	
外国語活動			15	15	50	50	
総合的な学習の時間			50 (-5)	50 (-5)	35 (-20)	35 (-20)	
英会話科	25	25	20	20	20	20	
特別活動	34	35	35	35	35	35	
総授業時数	850	910	945	980	980	980	

- ① 1 学年～2 学年は時数を確保するにあたり、生活科、音楽、図工、体育から充当する。
- ② 3 学年～4 学年は時数を確保するにあたり、音楽、図工、体育、総合的な学習の時間から充当する。
- ③ 5 学年～6 学年は時数を確保するにあたり、総合的な学習の時間から充当する。

(2) 中学校教育課程編成表（令和 2 年度）

		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
各教科	国 語	140	140	105
	社 会	105	105	140
	数 学	140	105	140
	理 科	105	140	140
	音 楽	45	35	35
	美術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語	140	140	140
道 徳	35	35	35	
総合的な学習の時間	15 (-35)	55 (-15)	35 (-35)	
英 会 話 科	3 5	1 5	2 5	
特 別 活 動	35	35	35	
総 授 業 時 数	1015	1015	1015	

- ① 1 学年～3 学年は時数を確保するにあたり、総合的な学習の時間から充当する。

(3) 「英会話科」の評価（外国語活動、外国語との関連を考慮）

	各学年の 英会話科 評価のポイント	コミュニケーションへの関心 意欲・態度	外国語への 慣れ親しみ	言語や文化に関する 気付き
小学校低学年	積極的な参加	簡単なあいさつ	英語の歌・ゲーム	英語の発音
小学校中学年	身近なあいさつや 事柄に関する英語	進んで日常のあい さつ	身近な英単語	基本的英語表現
小学校高学年	簡単な英会話 (外国語活動との関連)	英語で考えや気持 ちを表現	実生活で使う英会 話	(外国語活動で 評価)

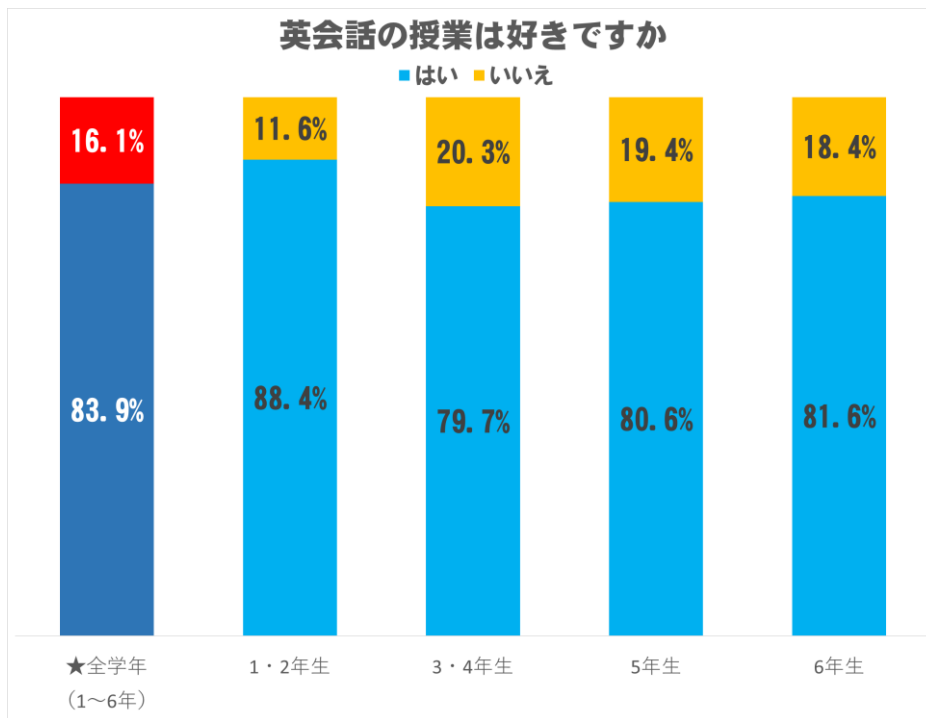
- ① 小学校においては上記の評価の観点・ポイントを参考に、各トピックスにおいて評価規準を設定する。
- ② 中学校においては外国語（英語）の評価の観点に準じて評価する。各トピックスにおいては外国語単元と相互に関連させながら評価規準を設定する。

5 諸調査の結果

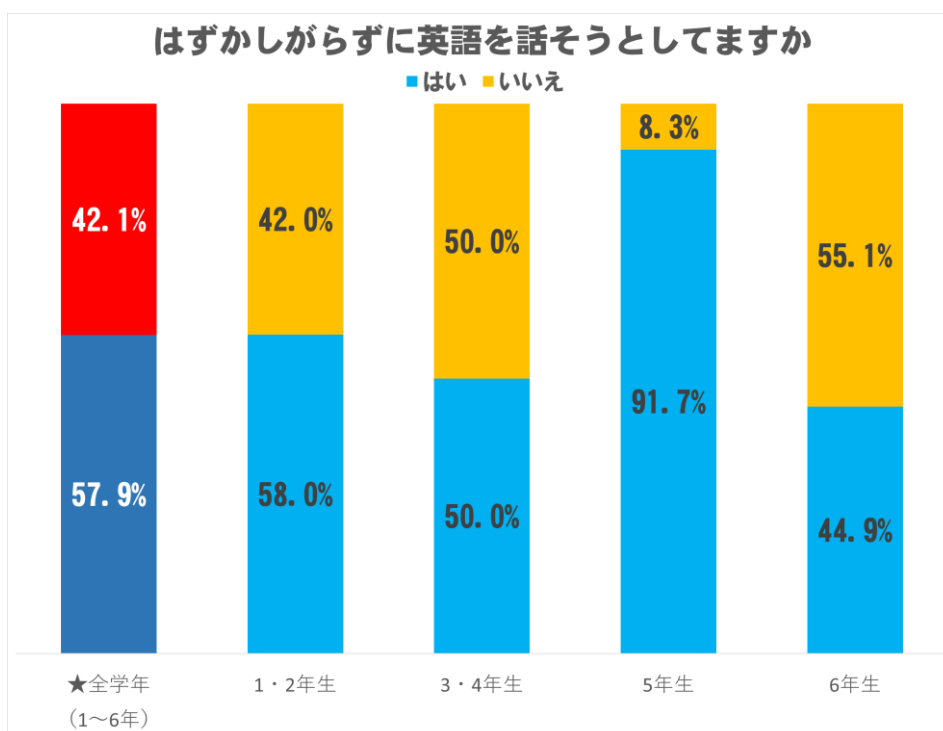
(1) 令和2年度英会話アンケート調査の結果

【目標に対するアンケートの結果】

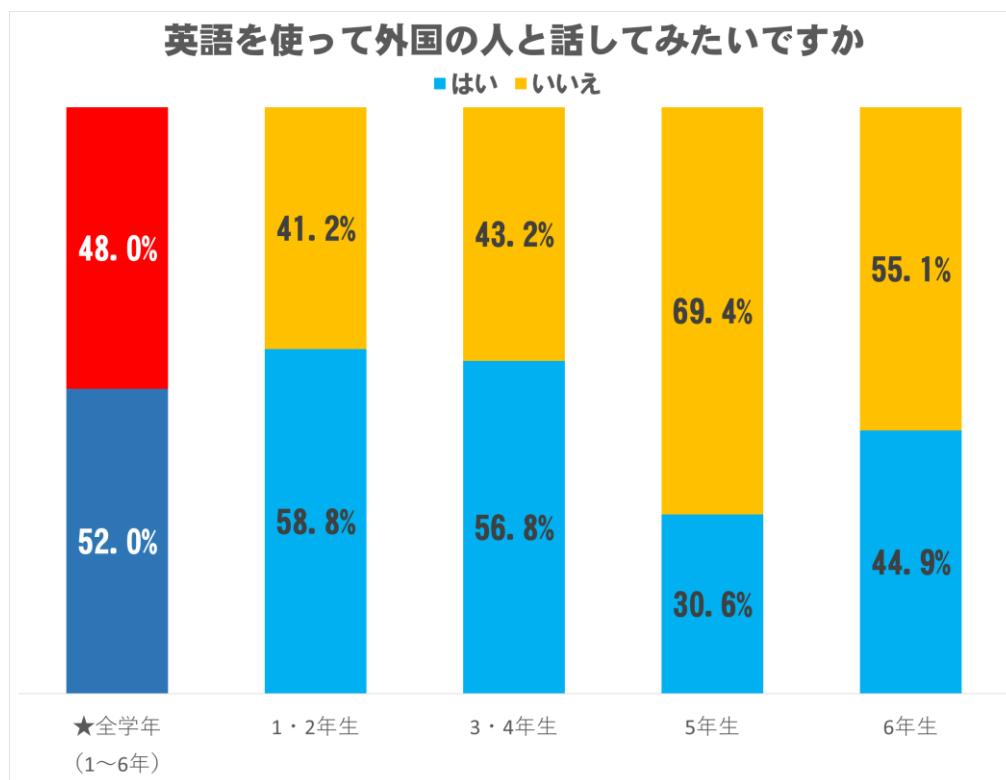
① 〈目標〉「英会話に興味・関心をもち、英語に親しむ。」



② 〈目標〉「英語を活用して自分の思いを伝えたり、英語を聞いて相手の考えを理解したりする。」



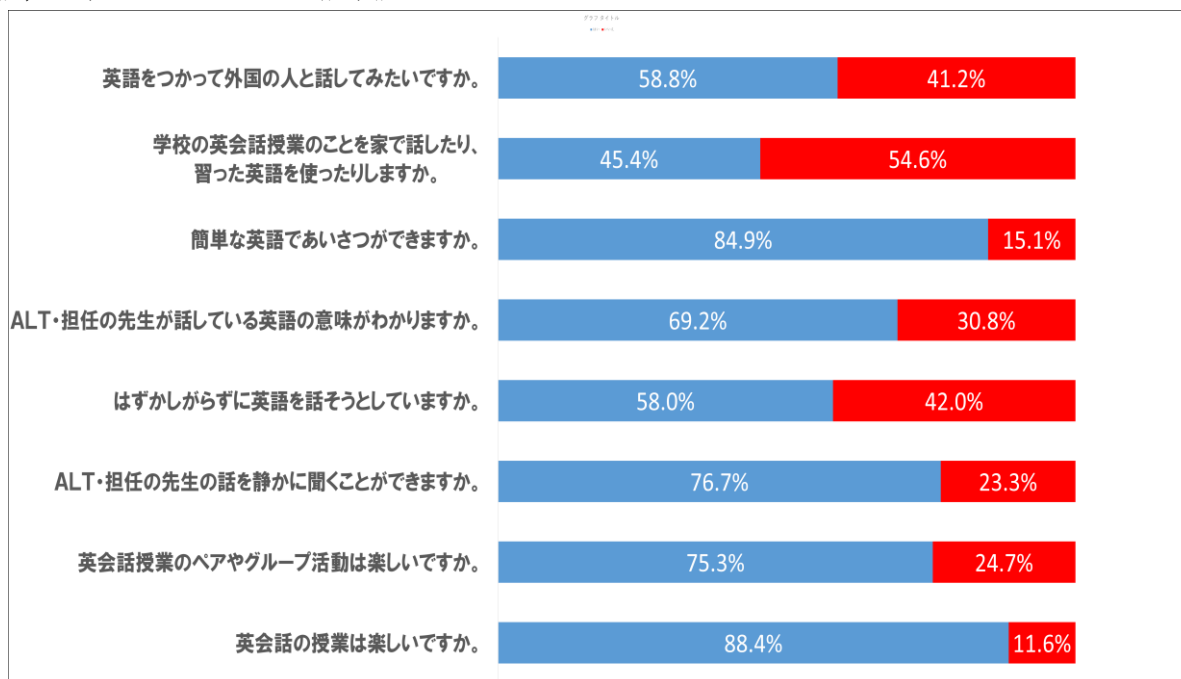
③ 〈目標〉 「英会話の学習を通して、異なる文化に興味・関心をもつ。」



④ 〈低学年の目標〉

身近な英単語を使っての歌や遊びなどの活動を通して、英語を楽しむ

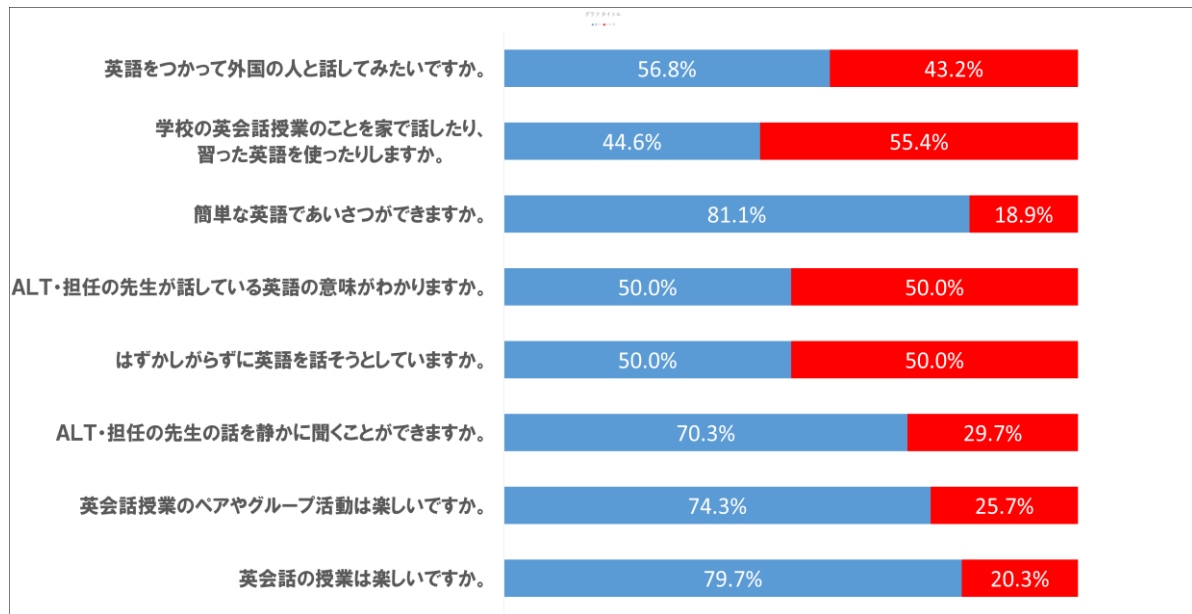
《1, 2年生のアンケート結果》



⑤ 〈中学年の目標〉

身近なあいさつや事柄に関する英語に触れながら、具体的な活動を通して、楽しく英語に親しむ。

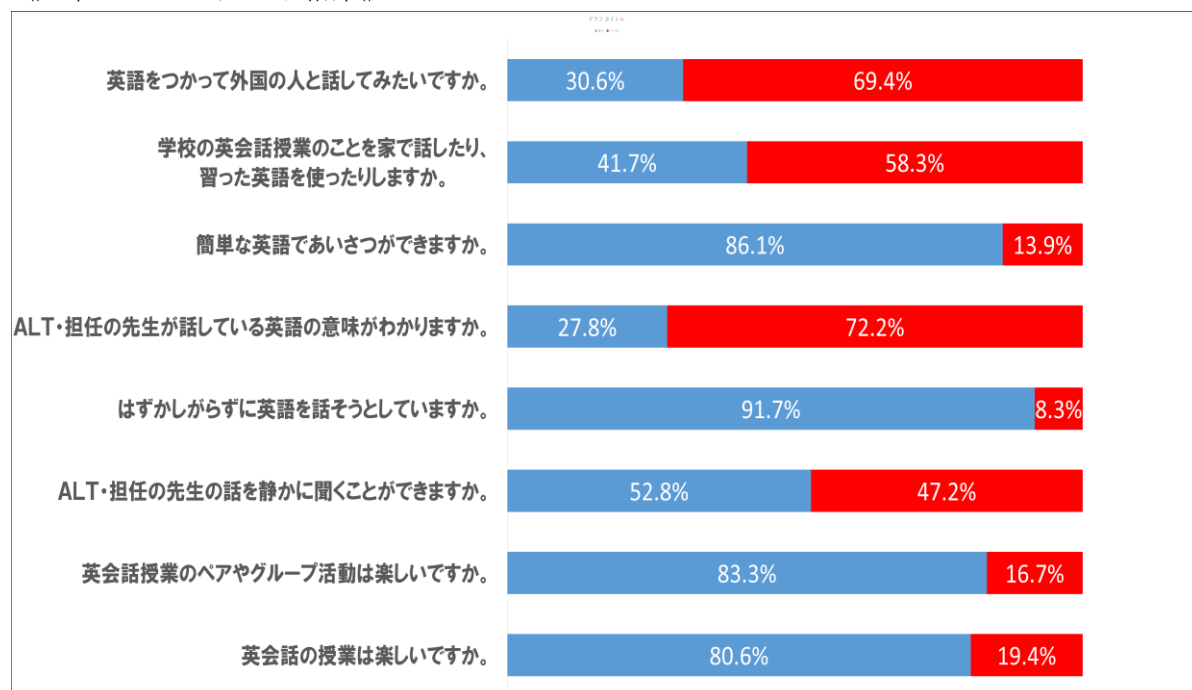
《3, 4 年生のアンケート結果》



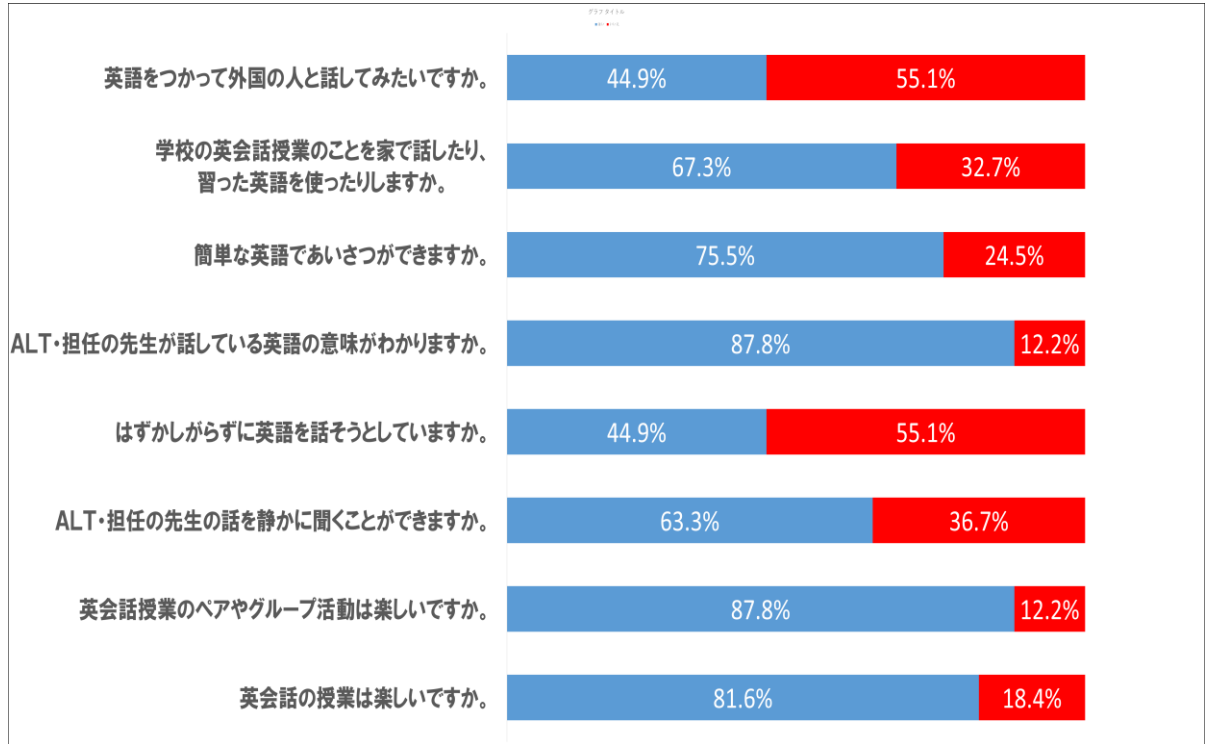
⑥ 〈高学年の目標〉

日常の生活場面や状況に応じた英語に触れながら、楽しく英語を聞いたり話したりする。

《5 年生のアンケート結果》



《6年生のアンケート結果》



6 考察と今後の課題

屋良小の英語学習に関するアンケート調査の結果より、「英会話の授業は好きですか。」の質問に対して、全体で83.9%の児童が「はい」と回答しており、その要因として、ゲームやクイズ、歌など児童全体の内容になっていることが挙げられる。また、中学校とのつながりを意識した取り組みとしても、授業の導入でHRTとのSmall Talkやかんたん英会話を取り入れることで、児童の興味や関心が広がっている。教師の授業づくりにおいては、学習計画表やすきま時間を使った担任との話し合いにより連携を図ることで、より充実したTT授業を進めることができた。

課題として、高学年の「英語を活用して自分の思いを伝えることをはずかしい」と感じる児童が多いことに関しては、発達段階によるものや、発話・会話に対する苦手意識が挙げられるので、今後、担任と連携を図り、今年度の取り組み（Small Talkやかんたん英会話など）を継続的に実施し、児童主体となるやりとりや必然性を持たせる活動や教材開発を行っていきたい。また、英語の教科化に伴った担任の英語指導力の向上のために、今後も研修等で学び、児童の英語力の育成に努めていきたい。